

七条中学校だより10月5号

京都市立七条中学校

令和8年10月7日

発行：校長 林 秀雄

体育の部を終えて

本日、澄み渡る秋空のもと、令和8年度体育の部を実施しました。

4月に新年度がスタートして半年。この間、皆さんは日々の授業や部活動、学校行事を通して成長を重ねてきました。その成長した姿を、今日の体育の部で随所に見ることができました。

開会式で私は、「最後まで全力を尽くすこと」「仲間の頑張りを認め合うこと」「安全を大切にすること」の三つの話をしました。

競技が始まると、80m走やレクリエーション走、2人3脚では最後まであきらめずにゴールを目指す姿が見られました。縦割り競技の玉入れやリバーシーでは、学年を越えて協力しながら勝利を目指していました。また、全員リレーや学級対抗リレーでは、仲間の思いをバトンでつなぎ、一瞬一瞬に全力を尽くす姿が観る人の心を動かししました。

そして何より印象に残ったのは、競技だけでなく応援する姿です。自分の出番が終わっても仲間に声援を送り続ける姿、成功とともに喜び姿、思うような結果にならなくても励まし合う姿がたくさん見られました。皆さんの力で、競技場全体が温かな一体感に包まれていました。

特に3年生の姿は頼もしいものでした。今年度のスタートから私は、「七中祭ではこれまでの先輩を超えるような姿を見せてほしい」と繰り返し話してきました。今日の体育の部では、その言葉を行動で示してくれたように思います。

競技に全力で挑む姿、仲間を全力で応援する姿、クラスや団をまとめる姿。最高学年としての責任感と誇りが随所に感じられました。後輩たちは、そんな3年生の背中をしっかりと見ていたはずです。皆さんが見せてくれた本気の姿は、七条中学校の新たな伝統として、これから後輩たちへ受け継がれていくことでしょう。

体育の部は勝敗を競う行事です。しかし、本当に大切なものは順位だけではありません。仲間と同じ目標に向かって努力した時間、思いを一つにして挑戦した経験、苦しい場面を支え合って乗り越えた過程こそが、皆さんの財産になります。

創立70周年という節目の年に行われた体育の部。皆さん一人ひとりの真剣な姿は、七条中学校の歴史に確かな1ページを刻んでくれました。そして今日築いた仲間との絆は、これからの学校生活を支える大きな力になるはずです。

次はいよいよ合唱の部です。体育の部で示してくれた「心をつなげる力」を、今度は歌声で表現してほしいと思います。今日の経験を自信に変え、さらに成長した皆さんの姿を楽しみにしています。特に3年生には、中学校生活最後の合唱の部で、七条中学校の歴史に残るような歌声を響かせることを期待しています。

「今日という一日」

今日は10月7日です。以前、学校だよりの中で、10月は一年の折り返しの月であることをお知らせしました。実は今日、4月の始業式から数えて（授業日数1年201日・2年202日・3年198日）99日目にあたります。

1年生は入学式から数えて10月9日が100日目ちょうど中間日、2年生も10月9日が101日目ちょうど半分となります。そして3年生は、本日が卒業式までの学校生活198日のちょうど半分の日です。

こうして数字で見ると、どの学年も今週が終われば学校生活の後半戦に入ることになります。皆さんはどう感じるでしょうか。「まだ半分も残っている」と感じる人もいるでしょうし、「もう半分しかない」と感じる人もいます。人の時間の感じ方は不思議なものです。

4月から今日までを振り返ると、「あっという間だったな」「思っていたより早かったな」と感じる人が多いのではないのでしょうか。入学式、始業式から始まり、日々の授業、部活動、校外学習、そして先日の70周年記念式典や七中祭の取組など、多くの出来事がありました。一方で、今から3月を見つめると、「まだ先は長い」「卒業や修了式はすいぶん先のことだ」と感じるかもしれません。

同じ時間なのに、過ぎた時間は短く感じ、これからの時間は長く感じる。不思議ですが、多くの人がそう感じるのではないのでしょうか。

裏へ

最近、毎日学校だよりを書きながら、私自身が改めて感じていることがあります。それは、「一日として意味のない日はない」ということです。今日の体育の部にも大きな意味がありました。仲間と力を合わせる大切さや、一生懸命取り組むことの素晴らしさを学ぶことができました。明日の学習確認プログラムにも意味があります。これまでの学習を振り返り、自分の強みや課題を知る大切な機会です。そして明後日の合唱コンクールリハーサルにも意味があります。本番に向けて仲間と心をつにし、よりよい合唱をつくり上げるための大切な時間です。

こうして考えると、学校生活の一日一日は決して何気なく過ぎていくものではありません。一日には一日の意味があり、一時間には一時間の意味があり、一分、一秒にもそれぞれ価値があります。だからこそ、後半戦を迎える今、残された日数を数えるのではなく、「今日という一日をどう過ごすか」を大切にしてほしいと思います。

今日の積み重ねが明日をつくり、明日の積み重ねが皆さんの未来をつくります。半年後に振り返ったとき、「あっという間だったけれど、充実した日々だった」と胸を張って言えるように、これからの一日一日を大切に歩んでいきましょう。特に３年生にとっては、今日から先の 99 日間で七条中学校で過ごす最後の 99 日間となります。仲間とともに過ごす一日一日を大切にしながら、七条中学校での思い出をさらに積み重ねてほしいと思います。